

## 2023年フクシマ連帯キャラバンに参加して

全日本港湾労働組合四国地本青年部  
部長 菅 智彦

2023年3月17日から21日にかけて、フクシマ連帯キャラバンが開催され初めて参加しました。

今回は、5日間の日程で福島県いわき市、福島市、茨城県、東京と周り活動してきました。

1日目は小名浜にて結団式を行い、キャラバン活動に向けて説明と仲間との顔合わせをしました。

2日目は、小名浜公民館で津島原告団の方々と意見交換会が行われました。原発からの被害や国は被害に遭われた方達のことをちゃんと向き合っていない事など教えてくださりました。その後、小名浜イオンにて3.13アクションを行いフィールドワークに向かいました。現地を視察しているとメディアでは得られない情報や、現地の生々しい現状を見て言葉が出なくなりました。交通機関だけは再整備されていましたが、建物は老朽化し、崩れたままの家や土地などが未だに沢山残されており、「これで何が復興しているのか」と怒りが凄く込み上がりました。そしてそのまま伝承館へ移動し被災地の歴史を見て学習をしました。当時の写真などを見ると胸が苦しくなるほど悲しくなり、被災された方々の辛さを感じました。そして、帰りに特別に津島原告団方の家を見学させてもらえることになり、老朽化が進んだ状況を教えてくださりました。帰りたくても帰れないという状態が身に沁みて分かりました。

3日目は、福島県福島市駅前にて街宣・署名活動を行いました。地元住民の方に声かけしても、断われたり、進んで署名してくれた方など様々でしたが、やっぱり断る方のほうが多く原発の危険性や環境破壊など意識が薄れてしまっているのかと感じました。そして、県民大集会に参加し多くの方々が集まりました。終了後キャラバン報告集会を行いこの日を終えました。

4日目は、茨城県にて自治体要請行動を各班に分かれて行いました。やはり自治体によって温度差が異なり他人事の様に思っていたり、真摯に住民の意見を訊いてくれたり様々な対応をしてきました。でも、自治体も国の動きを見ながら検討していくという意見が多く、これでは復興や原発の無い国になるのは、現政権下においてまだまだ先になるのではと感じました。そして茨城集会を行い、各班の活動報告と抱負など述べて最終日を迎えました。

5日目は、東京に戻りキャラバン参加団体による報告集会・さよなら原発 3.21 全国集会に参加し、全国から各労組が集まり 4000 人越えの大きなデモ行進が行われました。2.3kmと短い距離でしたが、みんな全力でシュプレヒコールなどの声を上げ、脱原発・福島復興の思いを皆さんの心に届くように訴えてきました。

この5日間のキャラバン活動を経て、原発の恐ろしさ、福島県の復興の現状、自治体の対

応など様々なことを学ぶことができました。現地に行かないと分からない、感じる事ができないことを改めて痛感し、少しでも自分達の力を被災された方々に届けることができる活動をしていこうと思います。そして、地元の若い世代にこの経験を受け継いでもらい、この原発事故を風化させないために声をあげていきたいと思います。

そして、今回キャラバンに参加した青年部の仲間の皆さん、沢山交流をしていただきありがとうございました。こんなにも熱い思いがある仲間が自分の周りにいると思うと凄く勇気づけられ嬉しかったです。

最後になりますが、フクシマキャラバンの開催にご尽力いただいた東北青年部の方々、本当にお疲れ様でした。